2022年８月28日 聖霊降臨節第13主日礼拝

メッセージ「あなたは何をしてほしいのか」　　牛田匡牧師

聖書 マルコによる福音書 10章46-52節

「あなたは何が欲しいですか」と聞かれたら、何と答えられるでしょうか。ある人は「〇〇が欲しい」と具体的な物の名前を挙げるかもしれませんし、ある人は「お金が欲しい」と言われるかもしれません。また人によっては「ゆっくり寝る時間、お休みが欲しい」と言われるかもしれませんし、「健康が欲しい」という方もおられるのではないかと思います。

先日８月24日で、ロシアがウクライナに軍事侵攻してから半年が過ぎました。当初こんなにも続くとは、ロシアの側も予想していなかったのではないかと思いますが、今なお日に日に被害を拡大しながら、戦争が続けられています。ウクライナ軍によるロシアへの反撃、クリミア半島侵攻なども続けられている中、ロシア軍によって核兵器が使用される危険性も、依然として続いています。そのような状況の中で、人々に「今、何が欲しいですか」と尋ねたら、おそらく「今すぐ、平和が欲しい。休戦して武器を手放したい。日常生活に戻りたい」と、多くの人たちが、一般人だけではなく、前線にいる兵士たちもまた、答えるのではないかと思います。

にもかかわらず、どうして戦火は止まず、戦争が継続されているのでしょうか。ロシア軍によるザポリージャ原発への攻撃も続けられています。ヨーロッパ最大級のこの原子力発電所が、今、チェルノブイリやフクシマのようになったら、どうなってしまうのでしょうか。全世界規模でのコロナ禍と相まって、世界各国での物価の急激な上昇など、この戦争は遠いどこかの国の問題ではなく、世界全体の問題であり、世界中のあちこちで危機的な状況が生まれて来ています。一刻も早く戦争を終えなければ、それこそ今年の１月に「残り100秒」と発表された「世界終末時計」は、残り０秒を迎えてしまうかもしれません。

世界中の大多数の人々が戦争の一刻も早い終結、平和を求めているにもかかわらず、戦争が止められないのはどうしてでしょうか。核兵器の登場によって、「もはや戦争は戦勝国と敗戦国という明確な区別が付けられるものではなくなった。あとに残されているのは、ただ全世界が混乱と無秩序になるだけだ」と言われてきました。たとえ地球が破壊し尽くされて、人類が暮らしていけなくなったとしても、戦争に勝利することに、何か意味があるのでしょうか。多くの小説や映画などに

描かれてきていますが、もはや戦争に勝利する意味などないと分かっていても止められないというのが、人間という愚かな猿の結末なのでしょうか。

今回の聖書のお話は、エリコの町にいた一人の盲人、視覚障がい者の癒しの物語でした。「マルコによる福音書」ではその人はバルティマイという名前だったと記されていますが、他の福音書では名前が無かったり（ルカ　18：35−43）、人数が2人だったり（マタイ20：29−34）しています。しかし、いずれにせよ、イエス様によるこのような視覚障がい者に対する癒しの出来事があったということは、実際のことであったので、それぞれの福音書に書き記されたのだろうと考えられます。

このバルティマイはエリコの町で、道端に座って物乞いをしていた（46）とありますが、目が見えないという障がいを持っているために、労働ができないというだけではなく、宗教的にも穢れている存在（レビ　21：18）だと考えられていました。そんな彼の耳に、噂に聞くナザレのイエスがエリコに来て、すぐそばにいるということが伝わると、彼は一生懸命に「ダビデの子イエスよ、私を憐れんでください」と大声で叫びました（47）。大勢の人々の足音や声、気配は感じたでしょうが、彼はイエス様の姿を見ることができませんから、大声で叫んで、見つけてもらう必要がありました。周りにいた多くの人々が、彼を黙らせようとしましたが、彼はますます大声で叫び続けた（48）ので、イエス様も気付き、立ち止まって、「あの人を呼んで来なさい」と言われました（49）。そしてイエス様は、自分の前に連れて来られたバルティマイに対して、「あなたは何をしてもらいたいのか」と尋ね、彼は「再び見えるようになることです」と即答しました（51）。それに対してイエス様は「行きなさい。あなたの信仰があなたを救った」と言い、彼は見えるようになった（52）というお話でした。

さて、この物語は、神の子であるイエス様は、何でもできるスーパーマンなので、そのイエス様にお願いしたら、見えなくなっていた視覚障がい者の視力が回復して再び見えるようになりました、というお話なのでしょうか。もしもそうだとしたら、現代を生きている私たちが病気や事故など、様々な困難にあった時に、「この病気を癒してください」「この苦しみを取り去ってください」と祈っても、それが実現しないのは、私たちの信仰が足りないからだ。バルティマイは信仰深かったから癒されたけれども、私たちの信仰は、彼ほどではないから、癒されないのだ、ということになってしまいます。本当にそうなのでしょうか。神様は、私たち一人一人の信仰

の量の多い少ないを測って、「バルティマイは合格、あなたは不合格」などと採点するような、そんな暇は持ち合わせていないのではないかと思います。

そもそもバルティマイがイエス様に向かって叫んだ「憐れんでください（キュリエ）」という言葉のギリシャ語の元々の意味は、「共感する／同情する」ですから、彼が叫んだのは「私の苦しみを分かってください」ということでした。実際の障がいや病気、生活苦など、その苦しみそのものが回復、改善しなくても、自分の抱えている悩みや苦しみを誰かに聞いてもらって、共感して分かってもらえたら、その重荷は一人きりで抱えている時に比べて、随分と軽くなるということは、誰にでもあることなのではないかと思います。

このバルティマイは、ただ視覚障がい者として、目が見えないというだけではなく、一人前の人として扱われない、当時のユダヤ人社会の中から排除されていた存在でした。彼の言った「再び見えるようになりたい」とは、視力の回復を通して、自分が再びユダヤ人社会の中に戻りたい、共同体の中に再び入りたい、周りの人たちとの関係性の中に生きるようになりたい、ということだったのではないかと思います。

イエス様がエリコの町に来て、道端に座っている自分のすぐそばにいるということを知り、大声で叫び始めたバルティマイでしたが、人々が彼を叱りつけて黙らせようとしたのは、単に大声がうるさいというだけではなく、障がい者として差別され、穢れた者として見なされていた彼には、そもそも発言権はなく、イエス様と会うには相応しくない、失礼だ、律法違反だ、という当時の常識的判断に基づくものだったのだろうと考えられます。ですが、彼は諦めませんでした。たとえ常識外れ、律法違反であったとしても、それでも彼は「私の苦しみを分かってください」と叫び続け、イエス様に呼ばれ、その前に連れて来られ、「何をしてほしいのか」と尋ねられた時には、ためらうことなく「再び見えるようになりたい」と答えました。周りの人からどう見られ、どう批判されようとも、そんなことは気にしませんでした。それが彼の心底からの願いでした。それに対してイエス様は「行きなさい。あなたの信仰があなたを救った」と言われました。これは「あなたはあなたの人生を、これからも生きていきなさい（ヒュパゴー）。あなたの信頼して行動を起こしたその生き方（ピスティス）が、あなたを変えたのだよ」という意味なのではないかと思います。その後、彼の視力が実際にどれだけ回復、改善したのかは分かりませんが、ユダヤ人社会の中から排除され孤立していた彼が、思い切って声を上げ、イエス様の前に進

み出たことを通して、また新しい仲間たち、新しい共同体との関係を発見し、その関係性の中に新たに生きる者と変えられていったということは、実際に起こったことのだろうと思います。

「あなたは何をしてほしいのか」、言葉を換えれば「あなたは何がしたいのか」……。簡単そうなこの問いに、私たちはどれだけ素直に答えているでしょうか。「私の苦しみ、しんどさを誰かに分かってもらいたい」「またみんなと一緒に、共同体の一員として認めてもらいたい」などと心の中では思いながらも、「でも、自分にはそんな資格がない」「自分は穢れているから、ルールだから、自業自得だから」と言って、自分自身で諦めたり、投げ出したりしてしまっていることはないでしょうか。とりわけ、立場を重んじる日本社会です。「自分の本心ではやりたくないけれども、立場上このようにするしかない。悪いとは分かっていたけれども、やむを得なかった」……。など、そのようなことがあっちにもこっちにも沢山あるのではないでしょうか。

上司と部下、与える側と受ける側、男性と女性、親と子など、それら固定化された役割、立場にとらわれるのではなく、そのような立場を区切っている境界線を飛び越えていくこと、自分の霊（プシュケー）を束縛するものから解放されて、自由になって身軽に生きていくこと、それがイエス様がその言葉とふるまいを通して示されたことなのではないかと思います。始まってしまった戦争が、なかなか止められないのも、「勝つまでは止められない。負けるわけにはいかない」という立場上の問題、メンツの問題なのかもしれません。また、そもそも戦争が始まってしまった根底には、抑圧され続けた自分自身の心、霊という問題があるのではないでしょうか。

「あなたは何をしてほしいのか」、「あなたは何がしたいのか」、この問いに素直に答えることができなくなる時、人類は心を見失って暴走していってしまうのではないでしょうか。イエス様は言われます。「あなたは他でもないあなた自身の人生を、これからも生きていきなさい。あなたの本心への信頼と、周りの人々への信頼によって起こすその行動、その生き方が、あなたを救い、あなたを活かします」……。混乱と差別、様々な抑圧に満ちたこの世界に、平和を作り出していくために、私たち一人一人が自分自身の中に平安を作り出すこと。立場ではなく自分の本心に素直になること。それが地上に平和を作り出す、一歩になるのだと思います。